

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名	教育委員会
-----------	--------------

基本計画	柱 人を育てる
	大項目 まちづくりを支える人材の育成
	取組みの方針 地域活動を推進する人材の育成

担当局 / 総務担当課名	教育委員会	企画課
連絡先	5 8 2 - 2 3 5 7	

21年度計画

-3-(2)-

施策名	地域活動をリードする人材の育成
------------	------------------------

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	地域社会の形成に参画する自立した市民として育ち、また市民が積極的に地域コミュニティ活動に関わっていく取り組みを支援することにより、活力ある地域の創造を目指します。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	地域活動を推進する人材の育成

	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	現状値		計画	平成21年度		目標値	
		年度	平成21年度		年度	平成22年度	年度	平成22年度
施策の成果	北九州市民カレッジの受講者数	年度	平成21年度	計画	600 人	年度	平成22年度	
	自らが地域づくりの主体となって学び、地域社会の形成に参画する自立した市民となりうる指標となります。継続して600人(20人×30講座)以上の受講生を見込むことが必要であると考えています。23年度以降については、新たな計画をもとに推進していきます。	現状値	716人	実績	716 人	目標値	600人	
				達成度	119.3 %			
		年度		計画		年度		
		現状値		実績		目標値		
				達成度	%			
	年度		計画		年度			
	現状値		実績		目標値			
			達成度	%				
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]			事業費	3,516 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)		
				うち一般財源	2,200 千円	7,350 千円		

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
	B	昨年度は26講座を実施し、716名が受講しました。受講生も年々増加傾向にあり、市民カレッジの修了生が自主的に地域でのボランティア活動に参加したり、講座を企画運営したりしています。また、市民カレッジにおいては、生涯学習活動を通して地域に貢献する人材の育成を図っています。
今後の局施策の方向性	多様な学習ニーズに対応した学習機会を提供し、現代的課題に対処するとともに、まちづくり、地域づくりを担う人材の発掘、育成を図る必要があります。また、高等教育機関、NPO、首長部局との連携を拡充させるとともに、市民カレッジ受講生による自主学習グループの育成・支援を図り、生涯学習を担う人材のすそ野を広げていきます。	

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

<input checked="" type="checkbox"/> 適切な評価 <input type="checkbox"/> 下記のとおり

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	教育委員会	生涯学習総合センター
連絡先	571-2735	

基本計画	柱	人を育てる
	大項目	まちづくりを支える人材の育成
	取組の方針	地域活動を推進する人材の育成
	主要施策	地域活動をリードする人材の育成

関連計画	北九州市教育行政総合計画(いきいき学びプラン)
事業期間	平成15年度～
経費区分	裁量の経費

-3-(2)-

事業名	北九州市民カレッジ事業					
-----	-------------	--	--	--	--	--

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市民の高度で専門的かつ多様な学習ニーズに対応した学習機会を提供し、自己実現の促進および生涯学習社会を担う人材の育成を図ります。				
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	地域活動をリードする人材の育成	成果	北九州市民カレッジの受講者数	

目的実現の為に実施する内容	実施工程	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由
		当初計画	北九州市民カレッジ事業の実施(高度で専門的かつ多様な学習ニーズに対応した学習機会の提供) 受講者数 600人 コース数 30	600人 30	新たな計画に基づき実施する予定		
実施状況	現状	北九州市民カレッジ事業の実施(高度で専門的かつ多様な学習ニーズに対応した学習機会の提供) 受講者数 716人 コース数 26	600人 30	新たな計画に基づき実施する予定			
		成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)					平成21年度
	北九州市民カレッジの受講者数			計画	600 人	年度	22年度
	自らが地域づくりの主体となって学び、地域社会の形成に参画する自立した市民となりうる指標となります。継続して600人(20人×30講座)以上の受講生を見込むことが必要であると考えています。23年度以降については、新たな計画をもとに推進していきます。			実績	716 人	内容	600人
コース数			計画	30	年度	22年度	
多様な学習ニーズに対応した学習機会を提供する指標となります。			実績	26	内容	30	
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]	事業費			3,516 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)	
		うち一般財源			2,200 千円	7,350 千円	
単年度計画							

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 市民カレッジの修了生が、自主的なボランティア活動グループを結成し、地域でのボランティア活動や市民向けの講演会を開催しています。また、市民カレッジにおいて、地域貢献につながる生涯学習講座を展開するなど、人材の育成が図られています。受講者数は年々増加傾向にあります。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	本事業の受講者による自主学習グループが、一般市民向けの講座を企画・開催したり、地域でボランティア活動等を展開したりするなど学んだ成果を生かしており、事業の目的である人材育成が図られています。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	1コース10回から5回程度のショートコースを設けることにより参加しやすいプログラムとし、参加者の拡充に努めました。高等教育機関との提携コースにおいて、経費負担を行う委託コースを減らし、主催コースを設けることで経費削減を図っています。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	複雑多岐にわたる現代課題を解決するために必要である高度で専門的な学習機会の提供が十分に図れなくなります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか。市の関与をなくすることはできないのか。	4	生涯学習社会を担う人材育成を図るためには、市民の学習ニーズに対し、質の高い学習機会を充実していくことが求められています。市民の学習ニーズを把握する市と市内および周辺の高等教育機関が連携していくことが必要不可欠であるため、市の関与をなくすことは適切ではありません。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	さらに多様な学習ニーズに対応した学習機会を提供し、現代的課題に対処するとともに、まちづくり、地域づくりを担う人材の発掘、育成を図っていきます。また、高等教育機関との連携を拡充させるとともに、市民カレッジ受講生による自主学習グループの育成・支援を図り、生涯学習を担う人材のすそ野を拡げていきます。